

**外国語学部**

I	研究水準	.....	研究 11-2
II	質の向上度	.....	研究 11-3

## I 研究水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

### 1. 研究活動の状況

平成 16～19 年度に係る現況分析結果は、以下のとおりであった。

[判定]

期待される水準にある

[判断理由]

「研究活動の実施状況」のうち、研究の実施状況については、外国語学部の特徴を反映し、翻訳を含む研究成果の出版が活発に行われ、また、多くの教員が国内外の複数の学会に所属し、国際的なシンポジウムやセミナーに積極的に参加している。研究資金の獲得状況については、科学研究費補助金を含む競争的資金の獲得に積極的に取り組み、平成 19 年度の採択率は大幅に増加したなどの相応な成果がある。

以上の点について、外国語学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、研究活動の状況は、外国語学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

上記について、平成 20 年度及び平成 21 年度に係る現況を分析した結果、平成 16～19 年度の評価結果（判定）を変えうるような顕著な変化が認められないことから、判定を第 1 期中期目標期間における判定として確定する。

### 2. 研究成果の状況

平成 16～19 年度に係る現況分析結果は、以下のとおりであった。

[判定]

期待される水準にある

[判断理由]

「研究成果の状況」について、学術面では、ヨーロッパ語系文学、言語学、日本語学、日本史等の分野において優れた研究成果を上げている。卓越した研究成果としては、動詞の意味的アスペクトを中核に構文分析を試みた研究が上げられる。社会、経済、文化面では、言語学、外国語教育、国際関係論の分野で、社会的な有用性も高い優れた成果が発表されており、例えば、現代ヒンディー語の辞典として本邦初の本格的辞典が刊行され、ヒンディー語を学ぶ大学生や南アジア関係の研究者の多くが利用するなどの相応な成果があ

る。

以上の点について、外国語学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、研究成果の状況は、外国語学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

上記について、平成 20 年度及び平成 21 年度に係る現況を分析した結果、平成 16～19 年度の評価結果（判定）を変えうるような顕著な変化が認められないことから、判定を第 1 期中期目標期間における判定として確定する。

## II 質の向上度

### 1. 質の向上度

平成 16～19 年度に係る現況分析結果は、以下のとおりであった。

[判定]

相応に改善、向上している

[判断理由]

「大きく改善、向上している」と判断された事例が 2 件、「相応に改善、向上している」と判断された事例が 1 件であった。

上記について、平成 20 年度及び平成 21 年度に係る現況を分析した結果、平成 16～19 年度の評価結果（判定）を変えうるような顕著な変化が認められないことから、判定を第 1 期中期目標期間終了時における判定として確定する。